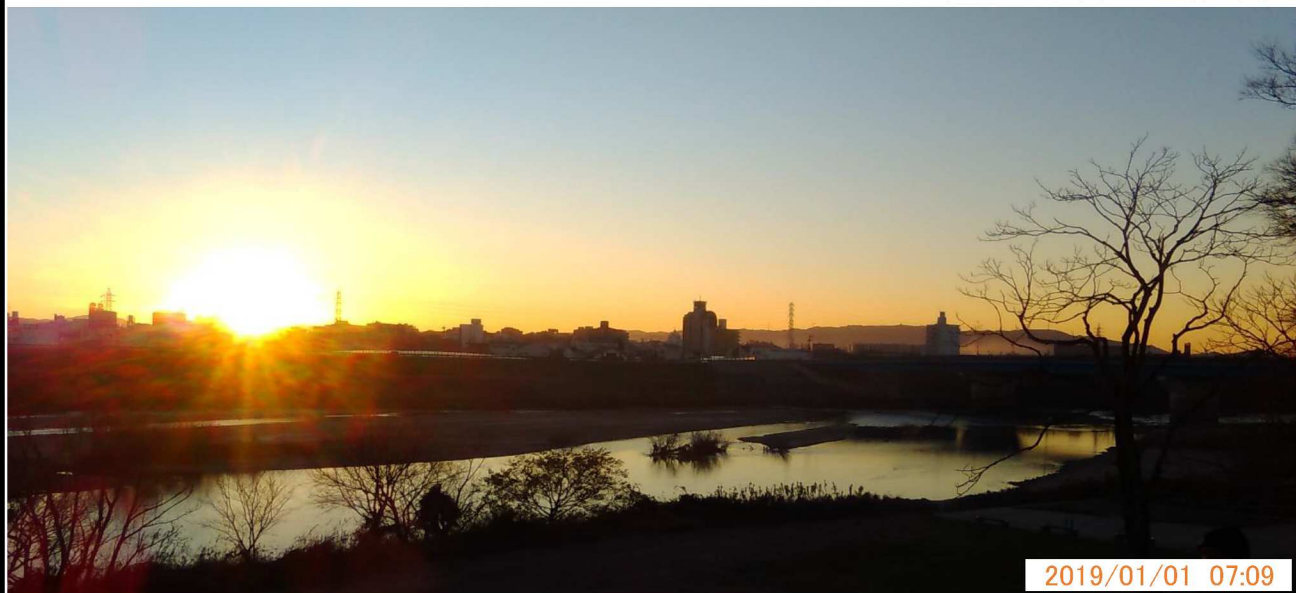


|     |              |        |  |
|-----|--------------|--------|--|
| 1月  | 矢作川 愛護モニター報告 | モニター区間 | 矢作川: 左右岸15.0km～28.6km<br>管轄出張所: 岡崎・安城出張所 |
| 実施日 | 平成 31年 1月 1日 | 実施区間   | 右岸22.0km～23.0km付近                        |

平成31年の始まりは東海道に架かる矢作橋の様子を報告します。

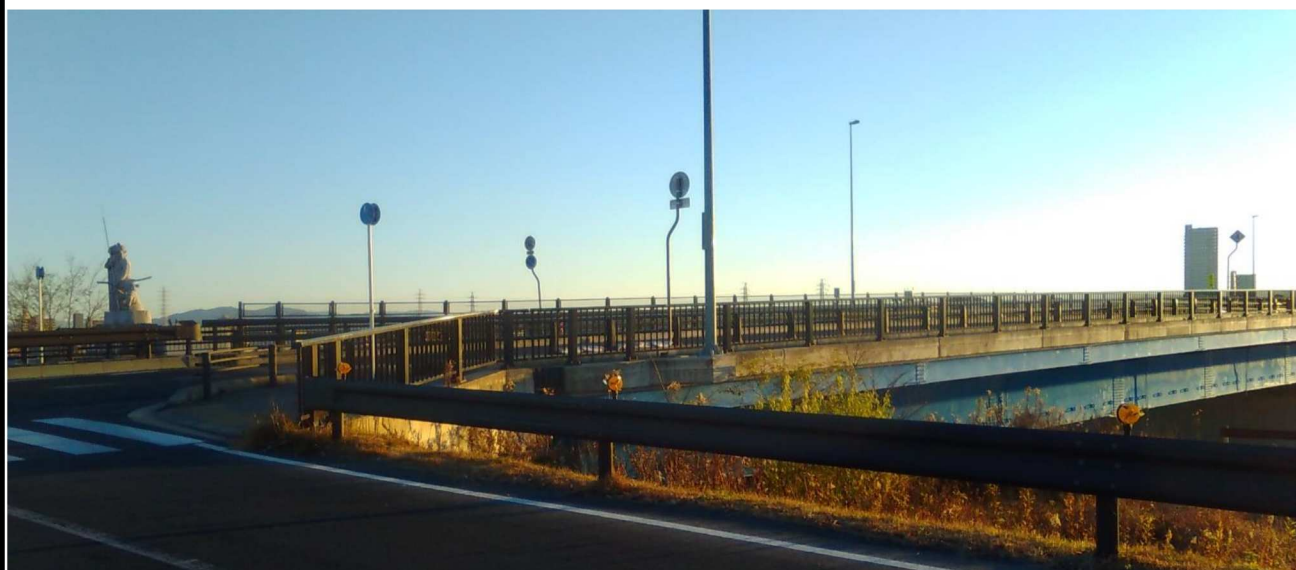
右岸23km付近から朝日の様子。



2019/01/01 07:09



右岸より日の出の様子と出合之像にある橋の名残そして現在の矢作橋の様子を撮影しました。



右岸から矢作橋の様子。

河川愛護モニター

|     |              |        |                       |
|-----|--------------|--------|-----------------------|
| 1月  | 矢作川 愛護モニター報告 | モニター区間 | 矢作川: 左右岸15.0km~28.6km |
|     |              |        | 管轄出張所: 岡崎・安城出張所       |
| 実施日 | 平成 31年 1月 1日 | 実施区間   | 右岸22.0km~23.0km付近     |

矢作橋の右岸にある出合之像とその説明を載せておきます。



出合之像には以下のような伝説があるそうです。

## 出合之像

太閤伝説・日吉丸と小六

日吉丸(後の豊臣秀吉)は尾張国中村(今の名古屋市中村公園)の木下弥兵衛(弥助)と妻のお仲の子で、八才のころから奉公にだされましたが、十二才の時の奉公先の陶器屋を逃げ出しました。家へ帰ることもできず東海道を東へ下る途中、空腹と疲れで、矢作橋の上で前後不覚で寝ていました。ここに海東群蜂須賀村(今のあま市)に住む小六正勝(後の蜂須賀小六)という野武士の頭が、手下をつれてこの付近を荒らし矢作橋を通りかかりました。通りざまに眠りこけている日吉丸の頭をけたところ、日吉丸は「頭をけり、ひと言のあいさつをしないのは無礼である。詫びて行け」と、きつとにらみつけました。小六は子どもにしては度胸があると思い、手下にするからその初手柄を見せよといました。日吉丸はすぐさま承知し、橋の東の味噌屋の門のそばの柿の木によじ登り、邸内にはいり扉を開けて、小六たちを引き入れました。目的を果たし逃げようとした時、家人が騒ぎだしました。日吉丸はとっさに、石をかかえ井戸に投げ込み、「盗賊は井戸に落ちたぞ」と叫び、家人が走り集まるすきに、すばやく門を抜け、小六たちの一行についたといえます。史実とは異なりますが日吉丸と小六とのこの伝説は、後の太閤秀吉と、武将蜂須賀小六の人間の側面を語る物語として、今なお私たちの心に生き続け、乱世の時代劇を垣間みる挿話となっています。

この伝説を後世に語り継ぐため、ここに石彫を建立するものです。



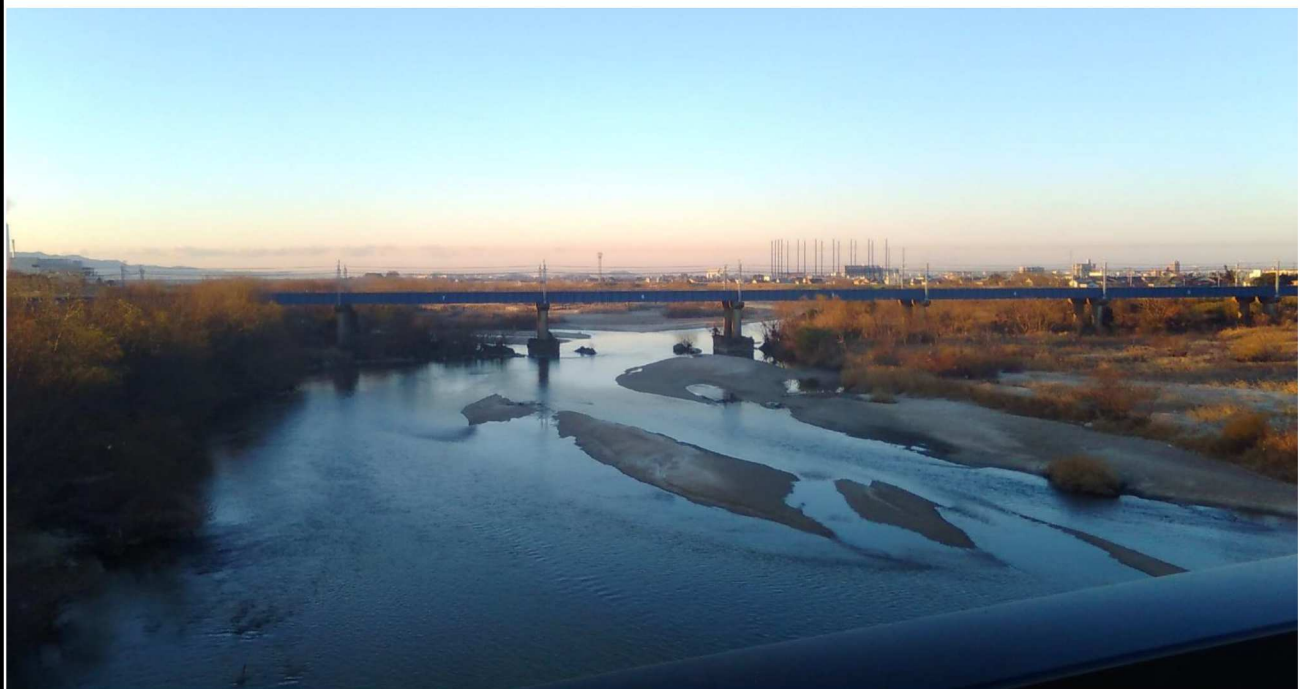
|     |              |        |  |
|-----|--------------|--------|--|
| 1月  | 矢作川 愛護モニター報告 | モニター区間 | 矢作川: 左右岸15.0km~28.6km<br>管轄出張所: 岡崎・安城出張所 |
| 実施日 | 平成 31年 1月 1日 | 実施区間   | 左右岸22.0km~23.0km付近                       |

矢作橋から見た上流と下流。



上流の画像手前にある水深を測る杭を見ると、水量が少ない事が分かります。

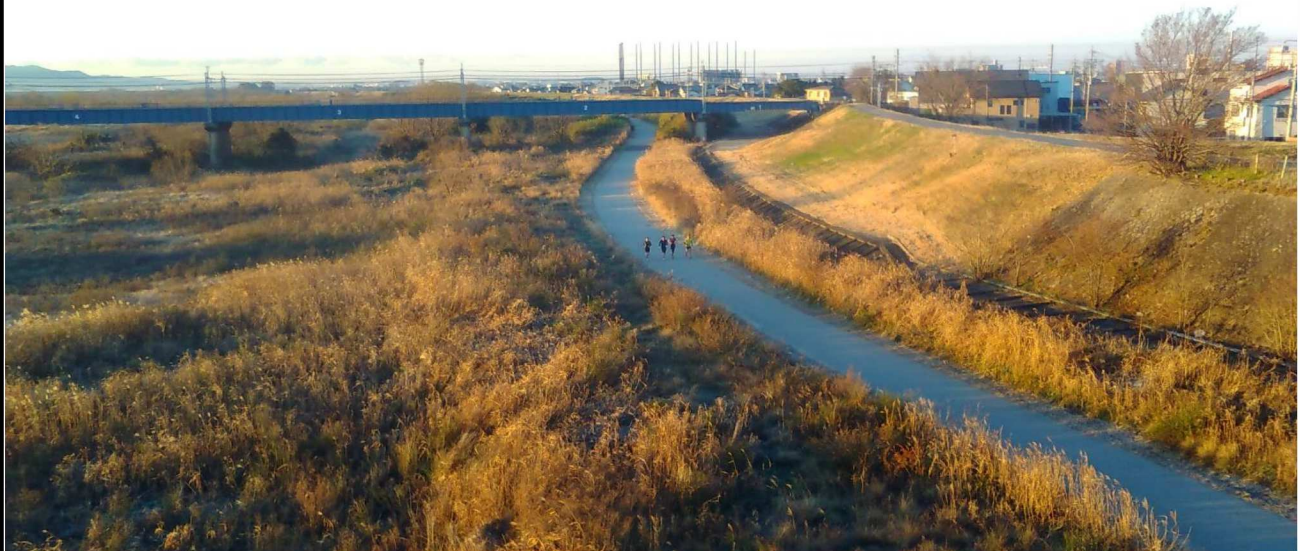
また、下流の画像でも電車の架橋から水位が低い事が見れました。





|     |              |        |                       |
|-----|--------------|--------|-----------------------|
| 1月  | 矢作川 愛護モニター報告 | モニター区間 | 矢作川: 左右岸15.0km~28.6km |
|     |              |        | 管轄出張所: 岡崎・安城出張所       |
| 実施日 | 平成 31年 1月 1日 | 実施区間   | 右岸22.0km~23.0km付近     |

矢作橋右岸寄りの遊歩道で早朝からジョギングする勇姿を見た。  
(画像中央付近)



遊歩道についての案内。



このように遊歩道には拠点（渡橋、矢作橋、日名橋）への距離が表示されていて、ジョギングやウォーキングを楽しむ方への案内がされています。



|     |              |        |  |
|-----|--------------|--------|--|
| 1月  | 矢作川 愛護モニター報告 | モニター区間 | 矢作川: 左右岸15.0km~28.6km<br>管轄出張所: 岡崎・安城出張所 |
| 実施日 | 平成 31年 1月 1日 | 実施区間   | 右岸22.0km~23.0km付近                        |

矢作橋上流の右岸にある矢作橋河川緑地の様子。



上流側には駐車場。



下流側では河原へ降りることができます。





|     |              |        |  |
|-----|--------------|--------|--|
| 1月  | 矢作川 愛護モニター報告 | モニター区間 | 矢作川: 左右岸15.0km~28.6km<br>管轄出張所: 岡崎・安城出張所 |
| 実施日 | 平成 31年 1月 1日 | 実施区間   | 右岸22.0km~23.0km付近                        |

矢作橋について興味を持ち、文献を探してみると「矢作川」という書籍を見つけました。述べられていたのは

「矢作川はもともと乱流をしており、戦国時代以前はもっと西の鹿乗川の方にも流れていたらしいのですが、その頃にも人の歩くような橋が存在した時もあったようです。そして鎌倉街道が渡の方にあった頃は街道はそちらの方が賑わって渡橋の所に土橋があったそうです。

岡崎城築城の頃、堤防を整備し、同時に橋らしい橋を作り東海道としてはこちらが主になってきたと言われていています。」

とありました。

参考文献: 矢作川 発行編集: 愛知県豊田土木事務所 平成3年3月

